

あたり前の価値

宇和島で釣りをすること



あたり前にそこにある
アタリ前にこそある価値

全国屈指の釣り場として知られる宇和島。よく釣れることはもちろん、釣れる魚の種類や大きさ、そしておいしさから、釣りの聖地ともいわれます。市民のみなさんの中にも、釣りを趣味にしている人がたくさんいると思います。

宇和島で釣りをする人は「おいしい魚がたくさん釣れる」ことだけではなく、釣り場に広がる美しい風景や、ゆったりと流れる時間も、あたり前に享受しています。

魚が餌などに食い付くことを「アタリ」といいますが、アタリが無くても、それらの魅力を堪能できることこそ、宇和島での釣りの大きな価値なのではないでしょうか。

今回は、市内で釣りを楽しんでいる人や釣りに携わっている人の話を紹介しながら、改めて宇和島で釣りをすることの魅力をお伝えします。

家族や仲間と過ごす、 宇和島ならではの特別な時間

宮本貴智さん、光大朗くん、聖仁くん



宇和島で生まれ育った宮本さんは、釣りが趣味だった父親の影響もあり、小さい頃から釣りに親しんできました。市外に出ていた時期もありましたが、現在は宇和島に戻り、休みの日に家族や仲間と釣りを楽しんでいます。

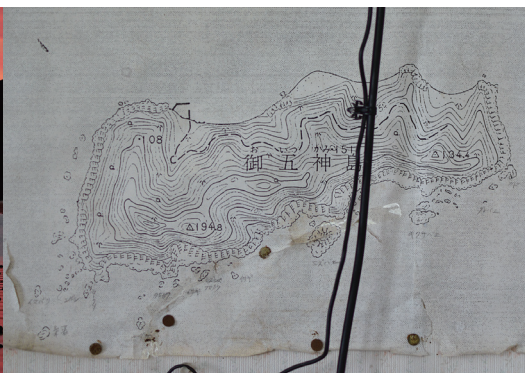
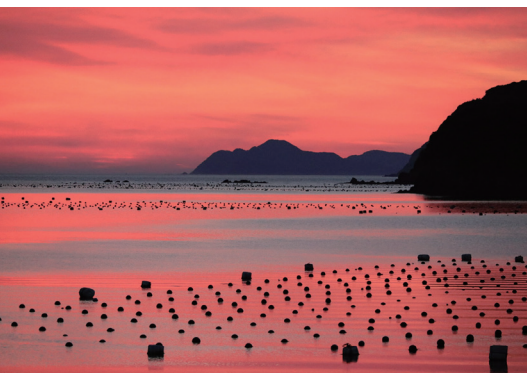
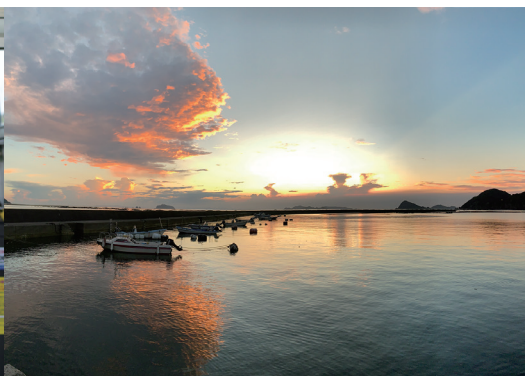
先日、長男の光大朗くん、次男の聖仁くんと舟で釣りに行くということで、同行して話を聞きました。この日は大潮で、波も穏やかな絶好の釣り日和。かじを握る宮本さんの顔も自然とほころびます。舟は仲間と費用を出し合い購入したもので「こ

んなことができるのも宇和島だからこそ」と笑顔を見せます。

ポイントに到着すると、子どもたちに仕掛けや餌の付け方を丁寧に教えます。質問攻めの聖仁くんに光大朗くんが優しく教えてあげていて、それをほほ笑ましく見守る宮本さんの姿が印象的でした。やんちゃ盛りの聖仁くんですが、宮本さんは「世話は大変だけど、嫌がらずにいるので将来期待できる」と笑います。

その後、陸からは見られない景色を楽しみながら、イトヨリダイやカサゴなど多くの魚を釣り上げ、大満足な一日となりました。光大朗くんは「釣りに連れて行ってくれてうれしいし、いろいろ教えてくれるので頼りになる。行ける日はなるべくついて行きたい」と話します。宮本さんは「釣れなくても竿を出すだけで癒されるし、思い出にもなる。子どもたちにはずっと釣りを楽しんでもほしいし、次の世代にも楽しさを伝えていってほしい」と、宇和島で釣りをすることの価値と未来について、穏やかな笑顔で話してくれました。





釣行二人

釣りに行く。一人で、家族や友人と、車で、船に乗って、磯から、防波堤から…。スタイルや嗜好によって釣りの楽しみ方はさまざまです。そしてそこには、釣れなくても釣れなくても、それぞれの特別なひとときがあります。それを味わうために釣りに出かけるという人も少なくないでしょう。

宇和島で釣りに行く。そこには宇和島ならではの景色や時間、思いがあります。そしてそれこそ、あたり前で特別な「ココロまじわうトコロ」なのだと思います。この特別を改めて見直し、次の世代へ残していけるように、できることを考えていければと思います。

